

◎今週の御言葉 「志を立てさせ、事を行わせる」

(イザヤ書60章19節～22節、ピリピ人への手紙2章12節～18節)

「太陽はもはや、あなたの昼の光とはならず、月の明かりもあなたを照らさない。主があなたの永遠の光となり、あなたの神があなたの輝きとなる。」(60:19)。

「神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。」(2:13)。

◎神様は、ご自分の働きを進めるために、先ずひとり一人の心に働きかけ、志を与えて、実現に至らせて下さる御方なのです。あなたの志は？

◎イザヤ60章後半に、終末における平和で輝やくエルサレムが描かれ、神ご自身が光となり、嘆きもなく、上下、大小、強弱なく、すべての者が平等に神よりの祝福に与るのです。

◎ピリピ2章にキリスト者が「世の光として輝く」ために大切なあり方を記されています。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです」(ヨハネ8:12)。「あなたがたは、世界の光です」(マタイ5:14)。ここにキリスト御自身とその御方を信じる者の存在があるのです。①キリストへの「謙遜と従順」です。それはイエス・キリスト御自身が謙遜であられ、神様に服従されたからです。それがたとえ十字架であっても従順であられたのです。神様は私たちの内に働いて「志を立てさせ、行わせてくださる」御方なのです。ですから人を意識した歩みでなく、神様の前に敬虔な歩みを求め続けていきたいものです。神様は御自身を敬う者に対して「救いを達成」したく願っておられるのです。私たちは主イエス様の功によって救われていますが、益々イエス・キリストを敬い、潔められ、キリストに似たものとして変えられていくのです。

②「つぶやかず、疑わずに行う」ことです。イスラエルの民の失敗はエジプトを脱出した直後にすぐに眩き、疑ったことです。「何時も喜び、絶えず祈り、すべてのことを感謝する」ことにより、非難されることのない純真な者とされ、「傷のない神の子ども」とされてゆくのです。③「いのちのことばをしっかりと握る」ことです。み言葉の約束を信じ、感謝して歩むことによって力と勇気が与えられるのです。

◎時代が邪悪であればあるほど、暗闇であればあるほど「光り輝く」存在が求められている。私たちが主イエスを信じ「主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていきます」(Ⅱコリント3:18)。与えられた使命を全うさせていただくために主の導きに従って歩みましょう。